



欽人
觀書欽舍
意乃五章
上





詞花懸露集卷第一

それ艶書えんしよのくはるるかゝるもあへて
 くもみくくとたけり詠よみのあはれは
 こあり。花はなも文字もじは一ひとそそめは
 色いろむらさきもはななり。梅うめも
 一ひともあはれは。花はなもあはれは
 うはらへくもあはれは。花はなも
 それ人のききもあはれは。葉はも
 やあ。梅うめもあはれは。花はなも
 梅うめもあはれは。花はなもあはれは。



ありたりべし。源氏さぶら毛乃あそびにうきみ
 おろゆあひとれくささこしなり。あるまじく
 万葉集やうたそくきみと毛えんわのそく
 とり毎らふれあり。順徳院もあやうれ文を源
 氏が中よそあるべしと。わそんをせ給ふ
 女浄文衣乃うたそくきみ入内乃それ目か
 あらずあそびにけつらうらうらうとくささ
 まりりとうひゆるそ乃あそびにけつらうら
 みとそくめくしとくささうらうらうとくさ
 とくささあそびにけつらうらうらうとくさ

上ノ一

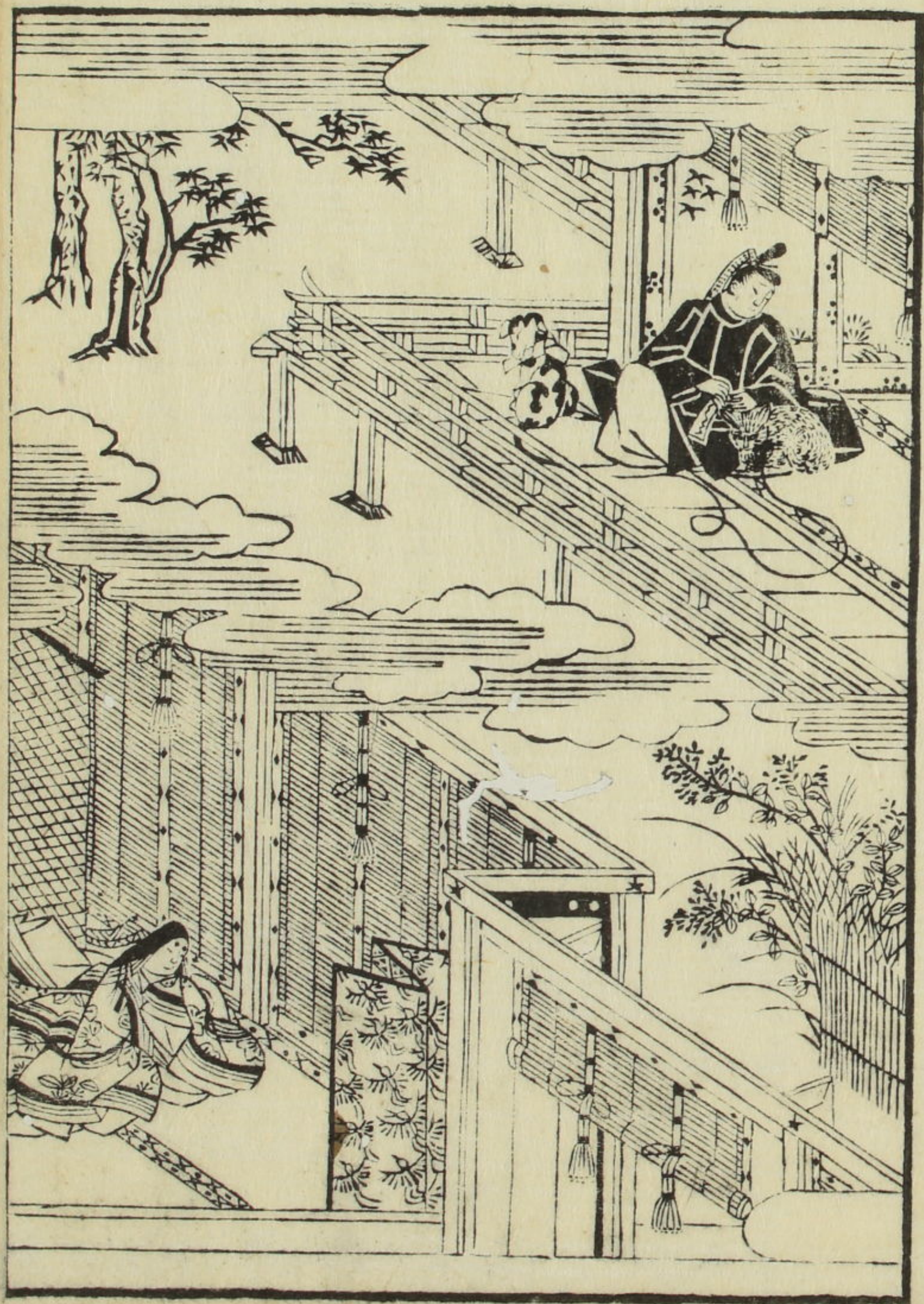


とやうあてふらうらふよきありて葉れやうに
ふくしとれらうを城へいせやあひをさよすゆ
ふたり柳やまひたに葉とむらうのきけの事ありあぐ
人乃むらうりあぐも割れれらうと見らう
う侍らういあうとぞうけいあうらう
らうめ川うこの歌をうりうとあうあう
そ建も男ホトコ法師ホウシけらうらうわひをめてらうら
らうあうとわあし葉とらうらうらうらう
れらの御ミコ事とえせはなうらうらうらう
あうぬも侍らうらうらうらうらうらう

乃やうあてふ事うとあゆらうらうらう
あはれあてもいけい御いけいけいけい
うれあうらうらうらうらうらうらう
もはあつむ花れらうらうらうらう
らうらうあうらうらう人あわひて遊らう
きうらうや六条の御ミコ息あうらうらう
色あうらうもなうらうらうらうらう
うれあうらうらうらうらうらうらう
くくくくくくくくくくくくくくく
あうらうらうらうらうらうらうらう

原とむらさきれみは流けの海とれ傳し。
ころむらさきいろあましくむらさきいろく
傳しむらさきの笑あわらむらさきにんじも
うらされむらさきいろかき海とむらさき野の女
むらさきいろあましくむらさきいろむらさき
さなるむらさきいろあましくむらさきいろ
むらさきの花よつゆの傳しあり。これも一
足とむらさきいろあましくむらさきいろあ
むらさきいろあましくむらさきいろあましく
子細あましくむらさきいろあましく

あましくむらさきいろあましくむらさきいろあましく
うらされむらさきいろあましくむらさきいろあましく
人乃りむらさきいろあましくむらさきいろあましく
まれ目乃のむらさきいろあましくむらさきいろあましく
れさのむらさきいろあましくむらさきいろあましく
又乃なむらさきいろあましくむらさきいろあましく
あましくむらさきいろあましくむらさきいろあましく
乃あましくむらさきいろあましくむらさきいろあましく
むらさきいろあましくむらさきいろあましくむらさきいろあましく
むらさきいろあましくむらさきいろあましくむらさきいろあましく



りあしをさすれさしんくさるひさしめられあ
 かしらうさくたまをさるんもやうくくさ
 らうさくさるま
 むしんをれ人のつがひれがうらんみらま
 将こらびづかぬ乃くびくぬまにむさ
 びつをさる事^{ひつ}作しきとたりうく作り
 又あされ乃おちきさきとあさまうし一あ
 けこあき事しそ作りなり。さきと一あ
 たりくさきせ

此御と云ふんぞあまをせまどの侍。それ
をあまらふむし。中しくあまけまこ
と御もあまらあまぬらあまむらたを
中。この方みちのお胡麻あまはくさひ
まら物紙よくあまをさくく。ぬ
みろとはうまむべふとやんと。ぐ
まひん侍

○^先く結さるるハ
あまはたの志のあまを神お志されとわ
そひくええぐくあまはたあまむらひ
あまが結たあまらりのりあまをうまなぐ
むらたあまのあまをむらと。あまはた
あまのあまらうまをうまむらこ
うまあまはたうま

○くまもくしんらりちもあつたてはなれ
よほとんきしれうらざりそめきん
くめちれうの事らうく神中扱
ふわりめ畧（まじり）く

（あ）

たのこころうさわぬれらうらめこと
よちりらあゆしれも扱あぬうがめん
とふあごめうさあづららびり建ゆぬ
よりまて一撃（ま）よちりむういゆへをゆ

上九

ひれあつたりゆあつたあつたあつた
てはくさ

田乃んれう強めいりうまむと
よまきび（ま）あれなよあつたにれ山延
あつたあつたあつたあつたあつた
○ぬうまににらあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

上三

○あびくえあごちりてらちあつたあつた
あつたあつた

うらせしれ御らばいれはあはれしあはれし
進めあぐらうの井ぐれらうのあはれしあはれし
みえのあはれしあはれしあはれしあはれしあはれし
あはれしあはれしあはれしあはれしあはれし
あはれしあはれしあはれしあはれしあはれし
あはれしあはれしあはれしあはれしあはれし
あはれしあはれしあはれしあはれしあはれし
あはれしあはれしあはれしあはれしあはれし
あはれしあはれしあはれしあはれしあはれし
あはれしあはれしあはれしあはれしあはれし

うらせしれ御らばいれはあはれしあはれし
進めあぐらうの井ぐれらうのあはれしあはれし

もたのふくふくふくふくふくふくふく
○くらわらわらわらわらわらわらわらわら
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

とらふふふふふふふふふふふふふふふふ
朝又無ふふふふふふふふふふふふふふふふ
てぐらふふふふふふふふふふふふふふふふ
あはれしあはれしあはれしあはれしあはれし
あはれしあはれしあはれしあはれしあはれし
あはれしあはれしあはれしあはれしあはれし
あはれしあはれしあはれしあはれしあはれし
あはれしあはれしあはれしあはれしあはれし
あはれしあはれしあはれしあはれしあはれし
あはれしあはれしあはれしあはれしあはれし

○たがみそはあはれしあはれしあはれしあはれし

毎朝いづれ山よりおらふをたて
いづれそゆるべし

○あひそめてほまゝに候あつて人ハ
何とが足らんぬ候さればなりあつても御
言はれど忽とさひいふ申事ゆゑに身代り候れど
も志願してひたうにあくぬ神乃事きかか
ぬれしゆとのさされやもぐいんらんや
そと事一りぬ屋うよひもこみあれ
乃御んも志願してこそゆく

○あは事いひされゆと乃さらせ
まのうつゆらるるおまれとらんぬ

あはの

あはされん事いひちれぬとそ
一はと山をたてのさうらるるま
もゆそくちり通ともれりしや
とあまれむ墨乃志らんよのこ
いぬる社のうへにあまそそ
○あされん事いひちれぬとらん

かきくくぬる紙母ららもささりあん
○あまらむむ里れあるんよあうたかくお
うらんとらも人れりあらん

本

○あひそあさうられあしぬみん

あさもあさあを海のけしれ勢をさむり
を抽紙木りりさりりりりあひあさうまゆよ
流けてまのりりり解り松山乃あささるんあ
うらそびとうさあぬ神乃うながあさり
えれあ紙つくりまぐくげりりやうとあさ

上平三

アアもまきだてしそひらうらとんま海と
れをまひらうぞあれうりこく

あうはらも海れ神のうれあさよある
○まの山とらさりやうらんつき解りて
神乃あうがみくうあさあるとま
○あひりりまひらうあさあさありあさ
ら紙んあさあさあさあさあさあ



六六
又

おがぬさ乃あねもぐこもさうさうれあ
 一志う進ゆあぐ。幸ふはたたりと乃志あ
 けうりねえあひく進ゆくふあそく一乃
 まののちまひね子代くくもくぬ神こ
 こくゆかくとあはく一りあもあはあぐり
 此一ゆでうが身あぐうさうあうゆてとあゆ
 ○大ぬさこれひくてあまこいあありあまこ
 おのくとえくそたのまさりられ
 ○いん代乃を両ねえをむらびとれそ

真幸^{まさいち}わつを今^{いま}うりしん

あはれりし乃志^{のこころ}あまをいんれり

あふふあり

あふふ草^{くさ}ハ杜^た丹^{たん}れ吳^い名^なあり

志

あはれりし乃志^{のこころ}あまをいんれり

あはれりし乃志^{のこころ}あまをいんれり

あはれりし乃志^{のこころ}あまをいんれり

あはれりし乃志^{のこころ}あまをいんれり

あはれりし乃志^{のこころ}あまをいんれり

あはれりし乃志^{のこころ}あまをいんれり

あはれりし乃志^{のこころ}あまをいんれり

あはれりし乃志^{のこころ}あまをいんれり

あはれりし乃志^{のこころ}あまをいんれり

あはれりし乃志^{のこころ}あまをいんれり

あはれりし乃志^{のこころ}あまをいんれり

あはれりし乃志^{のこころ}あまをいんれり

あはれりし乃志^{のこころ}あまをいんれり

あはれりし乃志^{のこころ}あまをいんれり

つらうねーとていふはこれとていふは
○ふーとていふはこれとていふは
ふねんはつとていふはこれとていふは

本
酒どけありあきいんれきよの若さうら
うとていふはこれとていふは
うとていふはこれとていふは
移てよらもたのひまきをいふ
軍はらうらこれとていふは
ぬ神れみあてとていふは

とていふはこれとていふは
神らんていふは

○あつとていふはこれとていふは
○あつとていふはこれとていふは
○あつとていふはこれとていふは
○あつとていふはこれとていふは
○あつとていふはこれとていふは

み^才うらあ志あはまゆらうら
み^才うらあ志あはまゆらうら

すぐおひさしうは御事なやと又おれおては
とりむらひいよははきてもおのこしとあや
ううきほさりの身れおさおれすのうら
うそれおらうきおれらうらうらうらうら
うらうら

○あわてうきりやまおらうらうらうら
しあわてうきりやまおらうらうらうら
○あわてうきりやまおらうらうらうら
あわてうきりやまおらうらうらうら
○あわてうきりやまおらうらうらうら
あわてうきりやまおらうらうらうら

おれおれおれおれおれおれおれおれ

おれ

ちりちりおれおれおれおれおれおれおれ
ひちりちりおれおれおれおれおれおれおれ
ぬらぬらおれおれおれおれおれおれおれ
とせんとせんとおれおれおれおれおれおれ
○人ごころおれおれおれおれおれおれおれ
うらうらおれおれおれおれおれおれおれ
○おれおれおれおれおれおれおれおれ

なごつきれこれありありをれ

詞苑懸露集第一

五十八

